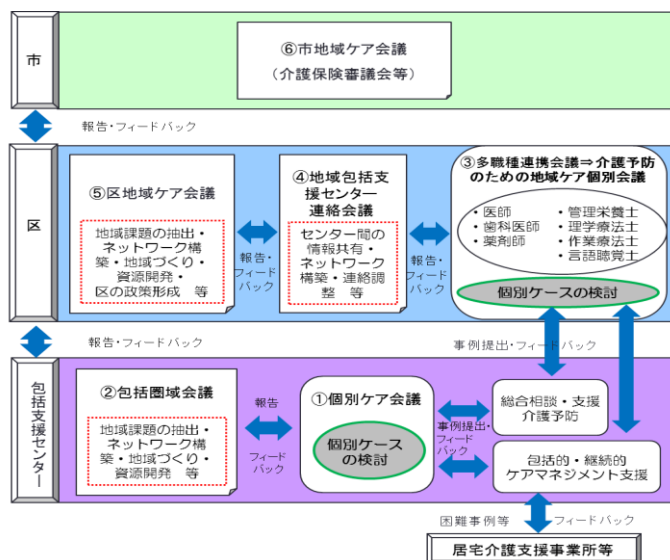


1. 地域ケア会議の実施状況（平成 30 年度実績）

地域ケア会議合計数		338 回
包括主催 (52 センター)	①個別ケア会議	117 回
	②包括圏域会議	189 回
区主催 (5 区)	③多職種連携会議	13 回
	④地域包括支援センター連絡会議	13 回
	⑤区地域ケア会議	6 回

【仙台市の地域ケア会議の構成】

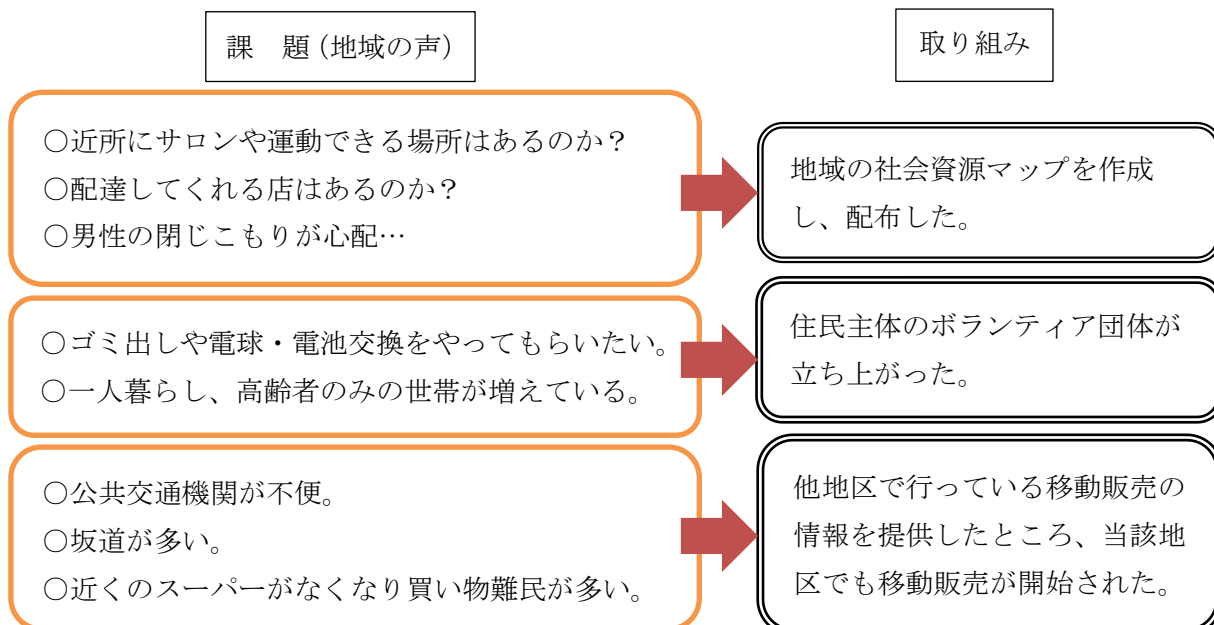


2. これまでの主な取組状況

(1) 圏域毎

包括圏域会議を通じた圏域内の地域支え合いの体制づくりの推進

地域住民や関係機関等と話し合いの場を持つことで、地域のネットワーク構築、地域づくりに対するモチベーション向上、地域課題の把握や共有、社会資源の見える化など、地域の実情にあわせて取組が進んでいる。以下は、取組の一例。



(2) 区及び市全域

①高齡と障害の連携の推進

【見えてきた課題】

- 高齡と障害の分野にまたがる相談の増加（高齡の親と障害を持つ子の同居世帯の事例、アルコール依存や精神疾患等、問題が複雑化した事例等）
- 地域包括ケアシステム構築に向け、高齡・障害分野の連携促進や地域づくりを共に考える機会が必要。

高齡者支援に係る「区地域ケア会議」と障害者支援に係る「区障害者自立支援協議会」を全区で合同開催することとした。

②介護予防と自立支援を促進する取組の推進

【見えてきた課題】

- 重症化してからの相談が多い。
- 軽度のうちから、適切なサービスにつなげることや地域との繋がりをつくる必要がある。

「多職種連携会議」を、主に軽度者の支援について、自立支援や介護予防の視点を重視して検討する「介護予防のための地域ケア個別会議」に移行することとした。

③医療と介護の連携の推進

【見えてきた課題】

- 包括圏域会議の医師の参加率は、全センターの約半数にとどまり、会議の質の向上や医療・介護の連携を図るために医師の参加率の向上が必要。

医師の参加が見込めないセンターに対して、必要に応じて仙台市医師会から推薦をもらう体制を構築した。